

認知症の周辺症状－その①

「財布を盗られた」もの盗られ妄想

日野病院 病院長 孝田 雅彦

日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。



認知症の記憶障害によるもの盗られ妄想

「財布を盗られた」「ご飯を食べさせてもらっていない」

これは認知症の患者さんでよく見られる訴えです。これに易怒性、怒りっぽくなる症状が加わると暴言、暴力へと進んでしまいます。「財布を盗られた」「お金を盗られた」などは頻回に起こり、身近な人、家族や世話を焼いてくれる近所の人を犯人と思いつぶることが多く、またそれを周りに言いふらします。

認知症と分かっている、犯人にされた人はつらい気持ちになりますし、家族であればけんかが絶えなくなり、友人であれば疎遠になってしまいます。実際には別の場所に財布を置いてそのことを忘れてしまっている

ことが多いのですが、認知症の記憶障害で忘れてしまい、自分が忘れたことを認めたくない、盗まれた可能性もあると考え、現実と想像の境界が不明瞭になっているため、盗まれたという考えが現実になってしま

ます。

したがって、その妄想を否定しても本人にとってはそれが現実なので、なぜ私を信じないのかと怒り出してしまいます。認知症における妄想は否定すべきでなく、傾聴するということが多くの書物に書かれていますが、現場ではそうもいかない場合もあります。

しかし、認知症の患者は孤独感、疎外感を感じていることが多いので、相づちを打ちながら話を聞き、ゆつくりと別の話題に持っていくのがいいのかもしれないかもしれません。ただし、興奮状態には一旦離れて様子を見る方が無難でしょう。

アルツハイマーが疑われたら一度相談を

アルツハイマー型認知症の初発症状は、多くの場合物忘れです。しかし、健常高齢者でも物忘れはよく見られる症状ですので、この区別が大切です。

物忘れの性状からある程度判断できます。しまい忘れや置き忘れ、同じことを何度も言うのは高齢者でもみられます。約束事や以前言ったことを忘れる場合は、アルツハイマーを疑います。前日のことやさっき言ったことを忘れる場合はアルツハイマーの可能性がかなり高く、直前のことも忘れるときは、ほぼアルツハイマーと考えられます。アルツハイマーを疑う段階になれば、一度内科あるいは神経内科に相談されることをお勧めします。認知症の患者と適切に接するには、認知症のことを知っておくことが大切です。

